

秋 分 儀 式

I :: O :: S :: 儀式魔術文書 AE02A

第 1 章	解 説
1	司官の配置
2	アストラル神殿の構造
3	身辺の準備
第 2 章	儀 式
	神殿への入場
	ウシャブティ
	マルクト神殿
	対立の合致
	天使の三段階の顕現
	PWの交換
	宇宙の主への賛歌
	天使の帰還
	地上への帰還

THE OFFICIAL ORGAN
OF
I :: O :: S ::

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I :: O :: S ::

THE AUTUMNAL EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I :: O :: S :: ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春分点の前後48時間以内に実施すること。

儀式内容は、イブン・アラビーらの天使論に立脚する。なお、神学の内容については、アンリ・コルバンの解釈を採用した。

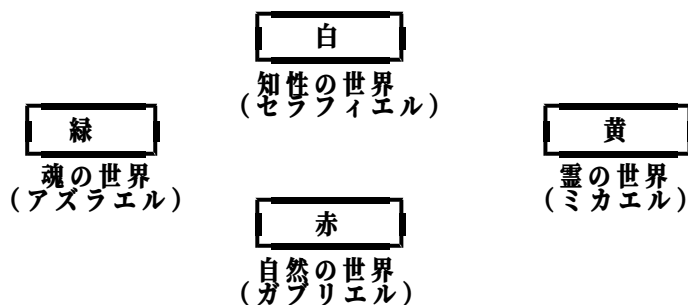
1 天使の流出論

イランにおいて10～11世紀に発達したイスマーイル・シーア派の流出論によると、原初的な大天使の10の位格の流出は、次のように行われる。第1のものは「叡智」(Aql)と呼ばれる。第2のものは、「叡智」の運動の結果、「靈魂」(Nafs)として流出する。この2者の対から第3の大天使「霊的アダム」(Adam Ruhani)が流出する。かれはデミウルゴス、または、ズルワーンとして顕現する。この霊的アダムは自己と永遠の存在化の世界に乖離があるのを見て驚愕しとまる。大天使が茫然自失している間に、第4から第10までの7つの下位の大天使が流出する。しかし、第3の大天使の遅延が故に下位の大天使にイブリースが生まれる。呆然自失状態から回復した霊的アダムは、下位の大天使の位格にイブリースが混入しているのを知ると、イブリースから自分自身を切り離し、地上に追放する。追放されたイブリースは、人間の顔をしたダイモンとなり地上に君臨する。一方、目覚めた第3階層の大天使、霊的アダムたる「人類の天使」は、プレローマの最後の階層である第10階層まで降格される。

スフラワルディーの解釈によれば、この第10番目の大天使はガブリエル(ジブリエール)、聖霊なる天使、認識の天使、そして啓示の天使である。

また、スフラワルディーの宇宙階層論によると、光の光からの流出としての下降的な段階である「縦の階層」(tabaqat-t-tul)、そして恒星天と接する「横の階層」(tabaqat-l-lard)がある。ここまでが「天使的宇宙」(ruhabad)であり、第2の「横の階層」にある主天使から第3の光の階層が恒星天を貫いて物質的宇宙(barzakh)に到達する。この光は地上の種を指導する天使=靈魂の光の階層である。そして、種の主として人類を見守るのがガブリエルであった。

一方、天使宇宙を巨大な伽藍として俯瞰すると、『ハディース』にある主の玉座を支える4光に表象される次の宇宙観が顕れる。



2 対立物の合致

イブン・アラビーによれば、神とは「対立物の合致」(coincidentia oppositorum)の中
でしか把握し得ない。それ故に、バシリデスの言う「否なる神」(οὐκ ὄν θεός)、または、
テオス・アグノーストスである。この神は「創造主・被造物」と呼ばれ、君主にして、奴隷
であり、崇める者にして、崇められる者であり、愛する者にして、愛される者である。

神と人間の合理を超えた合致は、信仰をキーワードとして成立する。神は宣言する。「天
にも地にもわれを収める場所なし。ただ、真にわれを崇める者の心臓にこそ、われは収まる
也。」これぞ「信念により創造される神」である。イブン・アラビーは、神は人間のこころ
(心臓)が認識できるかたちで神をとらえるとき、自らを顕現すると説いた。人間の目では
このかたちでしか純粋なる叡智を把握できないのである。

「信念により創造される神」という概念は、魔術の召喚の原理を正確に言い表している。

むろん、表面的な言葉尻を捕らえると、きわめて不敬に見える。しかし、神秘家の神髄は
「われは神なり。」という神人不二の状態にある。

そして、シーア派神秘主義の天使論によれば、人間の思考は「思考の天使」である。それ
故に秘儀伝授者の「良き言葉」、つまり、「地上の天使」の活動は、総体として「光の神
殿」(hayakal al-nur)を形成する。

そのためには、「被造物」(al-khalq)のなかに「神性」(al-haqq)を観想しなければならない。この具体的な方法として、賢者が真の幻視を得るためには、三つの段階があるとされる。

第一は、叡智を所有する者(dhull-aql)となることだ。「被造物」の实在が、外形的、外面的なものに留まり、「神性」は隠蔽されていることを知ることだ。かれは「神性」という鏡に映された像として「被造物」を見るが、鏡そのものは見えない。

第二は、幻視を所有する者(dhul-ayn)となることだ。第一の者とは逆に「神性」を顕わされたものとして捕らえ、「被造物」は「神性」を写す鏡であると見る。かれも鏡たる被造物は(真に)見えない。

第三は、叡智と幻視を兼ね備えた者(haqq al-yaqin)となることだ。かれは「被造物」のなかに同時に「神性」を見る。ヒエラティコスたるかれには、「多なるもの」と「一なるもの」は同義である。

参 考 文 献

- アンリ・コルバン『イスラーム哲学史』(岩波書店、1974年)
- アンリ・コルバン「マズダー教およびイスマーイール派思想における巡回する時間」
『時の現象学』エラノス叢書1(平凡社、1990年)
- アンリ・コルバン「一神教のパラドクス」
『一なるものと多なるものI』エラノス叢書6(平凡社、1991年)
- アンリ・コルバン「秘儀伝授譚とイランのヘルメス主義」
『エラノスへの招待』エラノス叢書別巻(平凡社、1995年)
- アンリ・コルバン『イブン・アラビーと創造的想像力』
Henry Corbin *Creative Imagination in the Sufism of Ibn Arabi* New Jersey,
Princeton University Press, 1969
- アンリ・コルバン『アヴィケンナと視覚的リサイタル』
Henry Corbin *Avicenna and the Visionary Recital* Irving, Spring Publication,
1980
- アンリ・コルバン『神殿と観想』
Henry Corbin *Temple and Contemplation* London, Islamic Publication, 1986
- タックストン訳『スフラワルディーの幻視論』
Translated by W.M.Thackston, Jr., Ph.D.
The Mystical and Visionary Treatise of Shihabuddin Yahya Suhrawardi
London, Octagon Press, 1982

1 司官の配置

a 司官の指定

本儀式に必要な司官は、1人である。

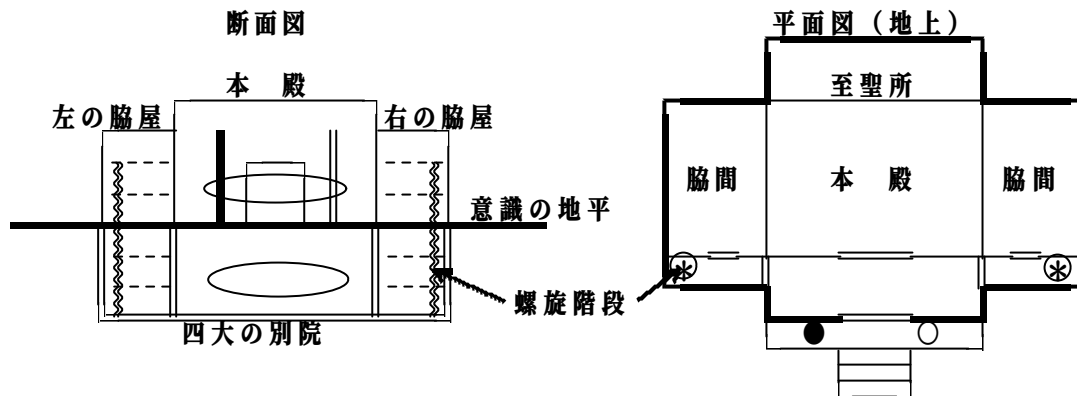
PRAECEPTOR (PC) 先導者

b 大天使の召喚

先導者は、マルクト神殿で大天使ガブリエルを召喚し、人類の天使が「肉の衣を去る」までは、実効上の神（天使なる神 Dei Angeli）として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

2 アストラル神殿の構造

本儀式においては、マルクト神殿の本殿を使用する。



3 魔術の教理及び技法的側面

a 対立物の合致

最も危険なのは、書かれてある言葉を機械的に反復することである。人間の「言葉」は、その心臓に発する思いを乗せるとき「地上の天使」となる。決して安易な発生をしないように、儀式文書に含まれたアラビア語（一部、イラン語）は、殆どが聖なる言葉である。

b 三段階の顕現

対立の合致により、PCの心臓に形成された霊的アダムの姿形の上に、創造の三段階をかたどり、大天使ガブリエルが顕現する。

c 説論「天使ガブリエルの羽音」

スフラワルディーの同名の教説より引用した。

4 身辺の準備

a 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

b シナリオ

シナリオ文書を一部、手軽に確認できる場所に置く。
自分以外のパートの台詞とト書をテープに吹き込んでおく。
神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

c 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LB RPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

第2章 儀式

参加者は、座ったまま目を閉じ、自分のアストラル的姿形を形成する。前方に光体を形成する。自らが輝く光の法衣を纏う様子を強く視覚化する。

光の法衣の着用が終了したら、沈黙し儀式の背後にある意味を黙想しつつ待つ。

あなたは、自分の光体の身体を立ち上がらせ、肉体を脱ぎ捨てたまま、前に進み光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたIOSの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャプティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャプティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みみの神、天使、神話的形式に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。

兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式を行う。

東に面し、開門の宣言を行う。

「ヘカス ヘカス エステ ベベロイ」

さらに、物見の塔の儀式を応用し、霊気を安定させる。

祭壇の南側に行き、南壁に背を向け、祭壇からランプを取り上げる。正面（北）、右（東）、左（西）と三方向にランプを振り言う。

「総ての幻影が去りし後に、宇宙の隠されし深みを飛翔する聖なる形なき炎を見るであろう。

汝、火の声を聞け」

次に振り返り、祭壇を背中にし、南に面する。白と黒の柱の彼方に荒涼とした砂漠が広がる。直立した奇岩なのか、風化した巨石建造物なのか分からない、小山のような石の柱の間に、蜃気楼のようなオレンジ色のサラマンダーが闊歩している。

押し寄せる熱波に直面し、自分の目の前に霊の能動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「BITOM」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「AHIH」

LVXサインを行う。

次に火の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「OIP TEAA PEDOCHE」

その中央に獅子宮のサインを書き、神名を振動させる。

「ALHIM」

PCは、フィロソファスのサインを行う。

「大いなる南の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、南の物見の塔の天使よ」

祭壇の西側へ行き、西壁に背に盃を取り上げる。三方向に盃の水を注ぎ言う。

「最初に、火の技を治めし祭司は、荒れ狂う海に清めの水を撒かねばならぬ」

次に振り返り、祭壇を背中にし、西に面する。白と黒の柱の彼方に、次々と波頭の押し寄せる大海原が広がっている。白い波頭は、蹄の代わりに水掻きの生えた水棲の馬である。その鱗の生えた蒼い肌の上に、海の乙女たちが豊かな胸乳をさらして、手綱を御している。

自分の目の前に霊の受動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「HCOMA」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「AGLA」

LVXサインを行う。

次に水の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「EMPEH ARSEL GAIOL」

その中央に鷲のサインを書き、神名を振動させる。

「AL」

PCは、プラクティカスのサインを行う。

「大いなる西の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、西の物見の塔の天使よ」

祭壇の東側に行き、東壁に背を向け、香炉を取り上げる。三方向に香炉を振り言う。

「かくのごとき炎、迸る《風》のなかにあらん。また、《声の似姿》を放つ形なき《火》、さらに声高に叫ぶ《渦巻く炎の光》のなかにもあり」

次に振り返り、祭壇を背中にし、東に面する。白と黒の柱の彼方に、丈の高いヒースの草原の緩やかな起伏が見える。その背後には黄塵と、流れ行く逞しい雲の連なりが広がり、黄色っぽい空の雲間には、半透明な存在の乱舞する様子が伺える。

自分の目の前に霊の能動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「EXARP」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「AHIH」

L V Xサインを行う。

次に風の召喚の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「ORO IB AH AOZPI」

その中央に宝瓶宮のサインを書き、神名を振動させる。

「IHVH」

PCは、セオリカスのサインを行う。

「大いなる東の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、東の物見の塔の天使よ」

祭壇の北に行き、北壁に背を向け皿から塩をつまみ上げ、三方向に撒いて言う。

「暗き輝きの地界に屈み込むなかれ。そこには、背信の深みと、闇を纏う冥府王が不可解なるイメージに悦び、風猛き絶壁、黒く逆巻く深淵は、つねに光放たぬ形なき虚しき場に連れ去るものなり」

次に振り返り、祭壇を背中にし、北に面する。白と黒の柱の彼方に、峨々たる小暗い山脈が聳えている。緑の裾野には、無数の生命が満ちあふれているようだが、むしろ、黒い岩肌を晒した山肌に、煌めく金属的な光芒が散らついている。剥き出しの鉱脈の上をグノームの工具が叩いているのだろう。

自分の目の前に霊の受動の追儼の五芒星を描き、次の言葉を振動させる。

「NANTA」

引き続き、五芒星の中心に霊のシギルを描き、神名を振動させる。

「AGLA」

L V Xサインを行う。

次に地の追儼の五芒星を描き、言葉を振動させる。

「EMOR DIAL HECTEGA」

その中央に金牛宮のサインを描き、神名を振動させる。

「ADNI」

PCは、ジェレイターのサインを行う。

「大いなる北の四辺形の名前と文字において、われ汝を召喚す。汝、北の物見の塔の天使よ」

祭壇の西に行き東面する。深紅の薔薇で霊の能動と受動の召喚の五芒星を描く。

「EXARP AHIH

HCOMA AGLA

NANTA AGLA

BITOM AHIH」

続けて言う。

「神秘なる統一のタブレットの名前と文字において、われ汝を召喚す。

汝、生命の霊の神聖なる諸力よ」

花を置き、ヴェールを開くポータルサインを行う。

「われ汝を召喚す。汝、不可視の座に住まう天球の天使たちよ。

汝は宇宙の門の守護者にして、またこの神秘なる球の守護者なり。」

邪悪なるもの、均衡を失いしものを遠ざけよ。
永遠の神々の神秘の住居を汚さざるため、われに力と霊氣を与えよ。
われがその中に入り、神聖なる光の秘密を分かたため、わが球を清浄かつ神聖たらしめよ」

P C は、魔法鏡の内部の安定し、活性化した霊氣を徐々に変容させていく。
天使たちの降臨により、激発する直前まで高められた魔術師の意志が、神殿の外壁、すなわち拡張された P C の魔法鏡の表面に、鮮やかな変幻する光を生む。それは虹のようにすべてのスペクトラムを輝かせる。それと同時に白色を基調とした魔法鏡の内部の霊氣が、徐々に赤化し、黄土色のぼやけた色調から、黄金の光を放つようになる。魔法鏡の表面の極彩色の光芒も、色彩の輪郭が溶け合うと黄金色にかわり、魔術師の霊氣に統合された。広間は、黄金の光に満たされた。

これらが完全に成し遂げられたら、神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

P C の霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。
兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち。姉妹は左側、北の壁際に立つ。

P C は、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。
P C : 「 I ∴ O ∴ S ∴ の兄弟姉妹たちよ。秋分の儀式を開始せん。」

P C : 「かの主の慈愛と慈悲の御名において、かの主を讃えん。
汝は、創造主、慈愛にして慈悲、審判の日の王なり。
ここに、わが信念は、かの姿を出現させん。
ここに、わが信念は、かれを輝けるものとせん。
ここに、わが信念は、賛歌を歌わん。
かれはわが栄光をかかげ、信念をわが胸に高めん。
わが信念は汝に、汝が助力は我にある。
われを直線の径に導け、汝の恩寵へと至る径へ。
不敬をなし、墮落をなすことのないように。」

P C : 「わが声を聞け。おお、主よ。
汝は、隠れたるものにして、顕現せるものなり。
汝は、君主にして、隷属者なり。
汝は、崇拜者にして、信仰を集める者なり。
汝は、愛される者にして、愛する者なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝の預言者、Navi (ナーヴィー) の祈りを聞き賜え。
汝が力を貸し賜え。
われは汝が光のなかで再生せんとす。
われは汝が光のなかで完成せんとす。
そは、次なる光なり。
Ta'wil (タウィール)、Intelligentia spiritualis、nous puneuma」

P C : 「汝は、われらの父にして、われらの母なり。
われらの栄光にして、われらの輝ける自己が顕現する。
そは本然の性、始原の光体なり。」

P C : 「わが声を聞け。おお、主よ。
われは、隠れたるものにして、顕現せるものなり。
われは、君主にして、隷属者なり。
われは、崇拜者にして、信仰を集める者なり。
われは、愛される者にして、愛する者なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝の仲保者、Khidr (キドル) は祈らん。
汝が姿を顕わさんと欲す。
汝はわが心臓のなかで再生せんとす。
汝はわが心臓のなかで完成せんとす。
そは、次なる名なり。
himma (ヒンマ)、Animus、eithumsis」

PC：「汝は、彗星より火を借り、光の戦を率いる者なり。
われらが足下に大地が見え、また天も見えるなり。
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「わが声を聞け。おお、主よ。
汝は、隠れたるものにして、顕現せるものなり。
汝は、君主にして、隷属者なり。
汝は、崇拜者にして、信仰を集める者なり。
汝は、愛される者にして、愛する者なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝が人間の天使、syzygiai（シジジャイ）の祈りを聞き賜え。
汝が力を貸し賜え。
われは汝が力のなかで再生せんとす。
われは汝が力のなかで完成せんとす。
そは、次なる力なり。
quwwat al-khayal（クウワット アル・カヤール）、Imagatrix、theoria」

PC：「汝は、夜明けの薄明にして、黄昏の薄明なり。
われらが影のはずれに來たとき、太陽はわれらの頭上にあり。
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「わが声を聞け。おお、主よ。
われは、隠れたるものにして、顕現せるものなり。
われは、君主にして、隷属者なり。
われは、崇拜者にして、信仰を集める者なり。
われは、愛される者にして、愛する者なり。
名前なき、形なき者、万物の創造主、光と闇の主なり。
汝が長老、shaikh（シェイフ）は祈らん。
汝が姿を顕わさんと欲す。
汝はわが合一のなかで再生せんとす。
汝はわが合一のなかで完成せんとす。
そは、次なる名なり。
huwa la huwa（フワ・ラ・フワ）、Deus abconditus、theos agnostos」

PC：「汝は、月の秘薬たる光にして、太陽の秘薬たる光の光なり。
われらが玄妙なる物質の心的王国を越えるとき約束は成就せん。
そは本然の性、始原の光体なり。」

PC：「汝は、われらが主にして王、至高至聖なる霊なり。
汝、燦然たる神の光を身に帯びたる者よ。
汝は聖霊の天の父にして、宇宙の母なり、しかして、心の天の子なり。
われらは汝を召喚し、汝に満たされんとす。
汝、輝く闇、aswad nurani（アスワド・ヌラーニー）！
この血に降下し賜え。
汝、最初にして最後の者、al-awwal al-akhir（アル・アワール アル・アヒル）！
この肉に降下し賜え。
汝、創造主にして被造物、khaliq-makhlūq（ハーリク・マハルーク）！
この骨に降下し賜え。
第1の顕現、tajalli awwal（タジャーリ・アワール）！
本質の本質への顕現はなされた。
第2の顕現、ta'ayyan awwal（タッアヤン・アワール）！
名と属性の顕現はなされた。
第3の顕現、tajalli wujudi shohudi（タジャーリ・ウジュディ・シュフディー）！
形相への顕現はなされた。」

祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、人類の大天使ガブリエルのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。

PCが宣言する。

PC：「われは、非在にして在る者なり。
五界を結ぶは、われなり。
軸と輪を束ねるは、われなり。
われは光と闇の轆轤を回さん。」

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。
I a H a V a H a (ヤァー・ハァー・ヴァァー・ハァー)
H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)
V o H o I o H o (ヴォー・ホォー・イョー・ホォー)
H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に天の城を建立せん。」

祭壇を軸として周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。春分は到来せり。」

PCは、祭壇の西に廻り、東に向かってハーポクラテスのサインを行う。
PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」
PCは、祭壇の東に廻り、西に向かってホルスのサインを行う。
PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

PCは、ガブリエルの翼を東の壁いっぱいに広げて言う。

PC：「ガブリエルは二枚の翼をもつ。
右の翼は純粋な光であり、人類の天使たるガブリエルと主の関係の象徴である。
左の翼は、闇の軌跡を顕す。あたかも孔雀の足跡にも似た月面の暗い斑のようだ。
それは彼の存在の片方が非存在へと向かうことの印である。もし、彼の存在のなかで、
神への関係を探るならば、そこに神の存在への帰属を見るであろう。もし、かれの精
髄たる実在を見るなら、それは非存在とそれに随伴する可能態存在の同時のあらわれ
を見ることになる。これら二者の微妙な意味は、二枚の翼とおなじく、右は神との関
係を、左は魂の内部にある精神的存在の実在を象徴している。
ある光がガブリエルから墮落したとき、それは劣位の言葉と呼ばれる言葉になった。
この世の不信心者すら、言葉をもつ。彼らも魂をもつからだ。しかし、彼らの言葉は、
地上の音と混交している。
ガブリエルの左の翼からは影が落ちる。そこから慢心の世界が生まれる。
神は、闇のなかに、宇宙を創造した。その後には自らの光を注いだ。
闇のなかに、宇宙を創造したというのは、左の翼の暗黒を指す。
その上に自らの光を注いだというのは、右の翼の光を指す。
栄光の書のなかで、神は光と闇とを定めたのである。
闇とは慢心のことを指し、闇の後から来る光とは、右の翼から指す光を示す。
慢心の中に指し込むすべての光線は、聖なる者の光から来るからだ。
かれは、その上に自らの光の幾ばくかを分かち与えた。
そして、神の高みへと、良き言葉が上昇した。この光も、あの光線に由来している。
良き言葉を表す寓意は、劣位の言葉が輝くことである。
もし、劣位の言葉がないなら、誰が神の御前に上昇できるだろう。
この言葉は、霊と同じ意味をもつ。
やすらぎの霊魂とは、汝の主にもどりきたり、喜び安らぎの霊魂を意味する。
それ故に、音と影からなる慢心の世界は、ガブリエルの左の翼であり、
霊智に照明された魂は、ガブリエルの右の翼である。
右の翼からは、東方なる真実や、聖なる宣言や、その他さまざまな事柄が魂の意識的
な部分に入る。
怒り、恐怖の叫び、そして最後の日のさまざまな事柄は左の翼から生じる。
汝ら、地上の天使たちよ、これの象徴を忘れず、言葉のなかの光を見るべし。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

PC：「聖なる場に神秘なる逆周行を起こさん。」
左回りの渦が形成され、そのまま三度周行する。

PCが発言する。

PC：「神秘なる逆周行は完成した。」

PC：「聖なる非在の主よ。
al-awwal al-akhir (アル・アワール アル・アヒル) !
万軍の將、靈の虚の場所に住まわん。
khalīq-makhluq (ハーリク・マハルーク) !
戴冠せる王、靈の虚の場所に住まわん。
第3の顕現、tajalli wujud shohudi (タジャーリ・ウジュディ・シュフディー) !
汝は、形相より去れり。
第2の顕現、ta'ayyan awal (タッアヤン・アワール) !
汝は、名と属性より去れり。
第1の顕現、tajalli awal (タジャーリ・アワール) !
汝の本質は、本質より去れり。
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。
主の聖靈は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。
主よ、生ける靈と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。
靈的なアダムは、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

PC：「人の子らよ。人類の天使は去れり。地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。

PC：「IHShVHとIHVShHの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《靈》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。(特別な手順は必要ない。) 静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ(『魔法日記』用)を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I :: O :: S ::
RITUALE DE
AEQUINOCTIO AUTUMNO II A

IMPRIMI POTEST: I :: O :: S ::
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
SEPTEMBER MCMXCXIII

秋分儀式 A E O 2 A

Copyrights © All rights reserved I :: O :: S :: 2002
2002年9月16日 I :: O :: S :: 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I :: O :: S ::の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I :: O :: S ::の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。